

平成 18年 4月 27日

平成 17 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏 名 藤原 剛

最終学歴	京都大学農学研究科博士課程単取得満期退学
取得学位	京都大学農学博士
所属学会	日本ハンセン病学会、日本農芸化学会、日本糖質学会、International Leprosy Association
現在の専門分野	糖類の合成化学、免疫化学
研究課題	合成糖鎖を利用したハンセン病、結核の早期血清診断法の開発 合成糖鎖を利用した抗体の抗原認識機構の解明

【研究上の特記事項】

- 1 抗ハンセン病特異抗原PGL-I三糖鎖単クロン抗体DZ1の蛋白質の構造解析のために必要なDZ1の高純度精製法を完成した。
- 2 富士レビオ（株）より委託研究を受託、テーマ：ハンセン病菌フェノール性糖脂質抗原関連物質の合成化学的研究  
ハンセン病の血清診断キットMLPAに用いる合成抗原NT-P-BSAに関して、合成法の改良および新合成法の開発を行ない、  
充分満足のいく結果を得た。
- 3 Quyhoa Leprosy-Dermatology-Venereology hospital（ベトナム）においてハンセン病の血清診断法ELISAとMLPAについて  
技術移転のため、現地において技術指導を行った。また、今後の共同研究の実施について協議を行った。
- 4 University of Hawaiiにおいて現在共同で行っているDZ1の構造解析についてデータの交換と討論を行った。
- 5 外部機関からのELISAおよびMLPAによる抗PGL-I抗体価の依頼測定が時々あり、これに応じた。
- 6 Department of Medical Research（ヤンゴン、ミャンマー）との共同研究の一環として合成抗原NT-P-BSAの供給と  
ELISAに関する技術協力を行った。

【教育上の特記事項】

- 1 環境論V：できるだけ新しい染色法や解析法を取り入れて学生の興味を起こさせるよう工夫した。
- 2 環境論VII, VIII：現地実習に出かける前の練習十分に行うなど、化学の知識がない学生にも実習に取り組めるよう配慮した。
- 3 人間論VIII：ビデオなどの視聴覚教材を多く取り入れ分かり易い講義に心がけた。
- 4 教職総合演習：講義時間外の個別指導に力を入れた。
- 5 世界遺産学：講義を2回行ったのでスライドを多く使って、エルサレムの魅力を十分に伝えるよう努めた。

【社会的活動】

特記事項なし

【学内活動】（学内職歴を含む）

入学部長として円滑な入試業務の遂行に努めた。

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 なし 2 3 4 5				
(学術論文) 1 なし 2 3 4 5				
(学会発表) 1 なし 2 3 4 5				
(その他) 1 Recent Development of serodagnosis of leprosy -ELISA and MLPA using synthetic sugar antigen NT-P-BSA- 2 3 4 5	単	2005年 4月	Quyhoa Leprosy-Dermatoloy-Venereology hospital seminar	開催場所 Quynhon (Vietnam) 招待講演者として講演